

畜産地方だより

岡山県養鶏加工農業協同組合連合会から

「岡山畜産便り」の編集係の方からの求めに応じ、一昨年6月に創立されて以来、全国的にもめずらしいケースとして注目されつつ、着々と実績をあげて参りました本会の概要について、この欄を借りてお知らせいたします。

発展を続ける岡山県の養鶏産業の縁の下の力持ちとして、職員一同今後ますます努力したいと張切っておりますので皆様からの御支援の程よろしく願います。

本会設立までの概況

本県では、昭和27年に岡山県養鶏連合会が設立され、県下養鶏地帯の単協及び養鶏農協を組合員として発足し、養鶏全般の購販事業を行なっていましたが、昭和30年以降県経済連合会が、飼料及び卵の共同購販事業を積極的に推進する様になり、両連合会の間に業務上の競合関係を生ずるに到りました。そこで昭和33年4月県農林部と農協中央会が斡旋に入り、養鶏関係事業の連合会における取扱いを一本化する方向をとることになり、越えて34年1月にはこれ等の話し合いが具体化して両連合会とも次の諸条件を諒承し合併にふみきました。

◎事業一本化の条件中主要な事項

- (1) 従来県養鶏連合会の取扱っている飼料、薬品、器具の購買、鶏卵の販売事業を県経済連に統合一本化する。
- (2) 県養鶏連合会の業務の内、食鶏の処理販売の事業は将来の重要性を考慮して、新に別の法人（県養鶏加工連合会）を組織して本事業の拡大強化を計る。
但し、廃駄鶏の集荷及びブロイラーの生産、集荷は県経済連合会の担当とする。
- (3) 県養鶏連合会は前記新法人発足後速に解散処置をとる。
- (4) 新法人に対する出資金は県経済連合会300万、県養鶏連合会、県冷凍利用農協各々100万、他に県から施設補助金250万とする。

以上の様な結論から愈々事業の具体化及び推進を行なうため、両連合会及び県から所要の人

員を差し出し、新法人設立の準備委員会及び同事務所を作りました。

34年5月食鶏処理加工施設の完成をみ、同月27日岡山県養鶏加工農業協同組合連合会としての設立登記を完了、6月5日には建築施設の竣工落成式をとり行ない翌6日より事業を開始しました。

構成員及び出資、補助金

(組合員名)	(出資額)	
県経済連	300万円	} 計460万円
県養鶏連	60万	
県冷凍利用農協	100万	
設備及び経費		

(1) 各室別坪数

室名	坪数
事務室	14・50
更衣室	1・50
食堂	3・00
廊下	3・25
販売店	1・25
荷造室	4・72
冷蔵室	5・28
機械室	2・00
第一処理室	18・75
第二処理室	9・375
食鶏格納室	17・75
放血室	2・25
浴室便所	4・35

1階小計 87・975

(補助団体名) (補助額) (資本金合計)
} 710万円

工事の種類	工事費
建物改増築	2,588,462
ボーリング	130,300
ポンプ設備及び給排水工事	125,000
ボイラー、湯沸機、抜毛機	1,131,180
冷凍機	520,000
合計	4,626,132

18・958
106・933

運営の概況

前にも述べました様に食鶏の生産、集荷については経済連が行ない、本会はこれを処理加工して製品を全販大阪支所を通じて販売する。他1部を岡山市内その他に直接販売することにしております。

岡山畜産便り 1961.04

ブロイラーの販売数は、ブロイラーの生産数を前提として最低単価を保証します。保証の具体的方法は、生産者が一定義務量を生産出荷した場合に限り行なうもので年間、時価取り引きを行ない年度末に全出荷量を通算してその平均単価が契約額に充たない場合、その不足額を補償するものであります。

現在月間の取扱い羽数は 25,000 羽前後で 1 日平均 1,000 羽余を処理しています。しかし季節的には多少増減があり、夏期は供給過剰の傾向強く、秋、冬期は供給不足に陥り易いので春、夏期分のもを冷凍貯蔵して需要期に備えています。

ブロイラーと廃駄鶏の取扱い比は現在のところ 8 対 2 でブロイラーが大部分を占めていますが、これから経済連の廃駄鶏集荷態勢の推進により、この取扱い数量を増加する計画です。

販路については現在のところ製品の約 70%が全販連を通じて京阪神へ、30%が岡山市及び広島の一部に販売しています。

なお、本会の常勤役職員は次の通りです。

専務 1、参事 1、事務職員 3（女子）労務職員 7（男 5、女 2）、臨時労務（男 1、女 1）計 14 名